



# 松原かわら版

世帯数 1,163 戸  
人口 2,960 人  
(平成 28.1.1 現在)

## 平成28年を迎えて

松原地区町会連合会  
会長 小栗勝人



明けましておめでとうござい  
ます。皆様におかれまして  
は、素晴らしい新年をお迎え  
のことと、お慶び申しあげま  
す。

さて、今年の4月で松原地  
区が誕生して13年目になりま  
す。急速に進む高齢化(平成  
27年10月1日現在で75歳以上  
218名、うち一人住まいの  
高齢者の方が53名)にどのよ  
うに対応するか皆様のご意見  
をお聞かせいただき、どのよ  
うな方向に舵取りをしなければ  
ならないか、町のあり方を  
決めていく年になるのではな  
いかと考えています。

昨年は町会連合会を主体と  
して、地域づくり推進交付金  
や松本市社協の補助金を利用  
した「ぷらっとカフェ」(水  
曜日・土曜日午前10時から11  
時45分)が町内公民館で始ま

りました。ただお茶を飲むだ  
けではなく、高齢の方が楽し  
い時間を過ごせ、互いの情報  
交換をし、つながりのある仲  
間づくりができればと考え開  
設いたしました。お茶菓子等  
は町会連合会が提供していま  
すが、時には来館者の差し入  
れもあり、みなさんの話も盛  
り上がっています。カフェを  
始めて4か月になります。来  
館者はすでに400名を超  
えています。今年も大勢の皆  
様のご利用をお待ちしていま  
す。

最後になります。本年も  
町会運営につきましてさらな  
るご支援とご協力をお願い  
し、あわせて皆様方のご多幸  
とご繁栄をご祈念申し上げます。  
新年の挨拶とさせていただきます。

## 年末年始の伝統行事

# しめ縄 三九郎



年末年始の伝統的な行事を継承してという、松原地区ごども会育成  
会が中心となって、しめ縄づくりや三九郎が毎年行われています。  
しめ縄づくりは第7町会の飯野恵也さんを講師として、年始を迎える  
大切な準備を学ぶ場として、年末の恒例行事になっています。  
また、三九郎はやぐらの組み立てから、まゆ玉づくり、やぐらへの点火、  
消火まで、地区の役員の方々の協力もいただきながら開催されています。  
それぞれの行事に参加したことから、驚きや喜びの声も聞かれ、  
やぐらに点火をした男の子の一人からは、「火を使うことに初めは少しど  
きどきしたけれども、思ったより怖くはなかった。」との感想も聞かれ、  
このような行事の中で日常ではできない体験をこどもたちがしていくこ  
とも大切なだと再認識できました。





### 新春インタビュー

昨年の「危険業務従事者叙勲」で、第3町会の福澤洋水さんが、「瑞宝双光章」を受章されました。



福澤 洋水さん

Q 先日の受章、誠におめでと  
うございます。その時のお気  
持ちはどんなだったでしょう  
か？

A 図らずも受章することにな  
り、大変驚くとともに名誉な  
ことであり嬉しく思っていま  
す。このような勲章をいただ  
けたのも、先輩・同僚それに  
仕事で知り合った地域の皆様  
からのご支援・ご協力の賜と  
感謝しています。

Q 警察官になろうとした動機  
は何だったのでしょうか？

A 家族の中には警察の人はい  
ませんが、隣が警察の  
官舎であり、こどもの時に回  
覧板を回していました。それ  
で家族の皆さんと親しくなり、  
親近感を覚えたのか、高い理  
想も深い考えもなく漫然と受  
験をしました。

Q 勤務地等の経歴を教えてください

だ  
さい。

A 入校と同時に、それまで勉  
強したことのない法学はもと  
より、柔剣道を連日行い、松  
本署へ赴任となりました。そ  
の後、長野を始め県下20カ所  
近くを転勤し退職となりました。  
その間転勤する先々で、  
人と接することの難しさ楽し  
さを教えていただきました。

Q 勤務中の嬉しかったこと大  
変だったことは何ですか？

A 転勤は身も心も大変疲れま  
した。家族全員で引っ越しを  
するわけですから、段ボール  
の何処に何が入っているのか  
忘れてしまい、次の引っ越し  
まで出てこないこともありま  
した。長野へ転勤した時は、  
官舎がなく民間の造り酒屋の  
従業員寮に暫くいましたが、  
ここの風呂は大きな酒樽を改  
良し、蒸気を引いて沸かす方  
式で愉快な生活を送りました。

Q これからのように過ご  
していきたいと思っ  
ていますか？

A 退職と同時にやっと松原の  
自宅に落ち着き、ご近所の皆  
様に助けられ12年ほどになり  
ました。時々家の周りを散策  
し、体力の維持に努めていま  
す。今冬は暖かく雪が多くな  
いことを願うとともに、穏や  
かな1年であってほしいもの  
です。

### 知事賞に輝く



小池春隆さん(工房みみずくにて)

小池春隆さん(第4町会)  
が平成27年度の長野県長寿社  
会開発センター、木彫部門最  
高賞の「県知事賞」を受賞さ  
れました。作品は、木彫「達  
磨大師像」で高さ100セン  
チの大作です(現在、県内の  
展覧会に出展中)。

小池さんは、同作品展に平  
成24年に初めて出品した木彫  
「円空仏像」でも理事長賞を  
受賞しています。今回の受賞  
作品は今年の秋に長崎県での  
全国大会に出展されること  
なっています。開発センター  
の作品展は毎年行われ、小池  
さんは毎年入賞(佳作以上)  
されています。

小池さんは小谷村のご出身  
で、ご家庭が林業関係であっ  
たことから、幼少より木に触  
れ、成人して松本に就職して  
からも、木製の玩具や仏彫彫  
刻などを長年にわたり趣味と

して来られ、定年後は本格的  
に大型彫刻にも作品の幅を広  
げておられます。

材料となる木材は、基本的  
には廃材を河原や山で調達し  
ています。作品は自宅の展示  
スペースに所狭しと並べられ  
て、松原の「福祉ひろば」に  
も玩具などが多数あります。  
自宅には「工房みみずく」  
と表示がされており、ご本人  
が在宅の時は、いつでも見に

### コラム 北の旅人

ちよつと重たいテーマなの  
で書くのをためらっていた。  
心に引っかかっているの  
やっぱり言ってしまう。反  
論、議論を戦わせて結論を導  
き出せればと思うが…。

町会のことである。住人に  
なれば当然入るものだと思っ  
ていた。すべてを行政に頼る  
わけにはいかないものだから。  
自分の場所を居心地良く  
したいはず。町内清掃もそう  
した仕事。確かに面倒なこと  
ではある。役員も、できる事  
なら避けて過ごしたい。本音  
ではある。ましてや重たい役  
が回ってきたらどうしよう  
とビビッてしまう。健康体でな  
ければ勘弁してほしいと思っ  
た仕事もあるだろう。

来てくださるとのことでした。  
作品は寄付や頒布もされてい  
るそうです。



小池さんの作品の数々

そこで他地区の友人に聞い  
てみた。「私も最近、町会を  
抜けたのよ。でも、悪いから  
町会費は払っているよ。」つ  
まり、脱会ではなく、自分の  
体調が良くないので仕事を免  
除してもらっているというの  
である。

「私たちのところは町会を  
抜けても町内清掃には出なけ  
ればいけないことになってい  
るよ。」「そもそも脱会なんて  
ことはないよ。」という地区。  
役が回って来るのが嫌だか  
ら、いつそのこと脱会してし  
まおう。ということにならな  
い方法はないのだろうか。脱  
会「は残った人たちの負担に  
なる。何らかの理由で脱会す  
るとしたら自分のできること  
で協力する姿勢は必要だ。自  
分から自分を孤立させてはな  
らないから。」